

東海学園大学での学びと生活のアンケート調査

—スポーツ健康科学部、教職課程履修四年生の意見—

右高和生* 関戸令子** 右高知佳

はじめに

三年前2017年の秋学期に現在の四年生に初めて出会い「教職概論」¹⁾の授業を通して「教育とは何か、教職とは、教師とは何かを考え、真剣に向き合って一緒に探していこう」と本学での学びの目的を確認したことを覚えている。3時限目に67名、4時限目に80名、計147名であった。

「その探し求める学びは、決して机上の学びだけでなく、一人一人が目指す教職人として眼前の子どもたちや周囲の人々に、生きて働く知識と技能であること、またどんな状況にも対応できる思考力、判断力、表現力を身につけることである。そしてその学びは、人生や社会に生かそうとする学びに向かう力となること、自己の人間性を涵養していくことであること、このことがみんなが選んだこの東海学園大学で目指す学びではないか」と問うた。

そして2020年「教師養成講座」や「教職実践演習」の授業で再びこの学生たちと学ぶ機会を得た。「教職実践演習」では、男子34名、女子31名、計65名。

限られた四年間の学びと生活の中で、どれ程の「確かな学び」をし、どれ程の「生きた学び」、「学びの実感」²⁾「今後生きる学び」を得たかを少しでも確認したいと考えた。それは、彼らが教師となった時に「実学」となり「学びに向かう人間性」を持ち合わせた教師として、子どもたちに確実に「生きる力」³⁾を教えることのできる教師になり得ると確信するからである。

このような経過から、教職課程を履修している学生についてのアンケート調査を実施し、本学の学生の力が「生きた学び」となっているか、そして本学での教職課程の課題は何かを探る必要があると考えた。

I アンケートの目的

上記の経緯から、本学スポーツ健康科学部、教職課程を学んできた四年生の学生が卒業を控え、何を、どのように捉えて、どう感じているのか。また、本学での四年間の学びの中から得たものは何か。それら学生たちの「学びと生活について」を筆者らは今日まで理解できていないままであり、そしてまた十分な調査がなされていないことがあると考える。このアンケートは、このような認識に基づいて、(1) 四年間の学びと生活の充実度 (2) 人間としての成長度 (3) 今後生きる実践的な学びであったか (4) 授業や学びへの意欲 (5) 四年間で身につけたと思う力とは何か (6) 東海学園大学卒業生としての誇り (7) 「やり残した」と感じるもの (8) 再度、本学や他大学での学ぶ意欲 (9) 本学での学びの環境をさらに充実させるための意見等を調査し、①学生の四年間の学びと生活の実態を捉えること ②学生の学びは、「今後に学ぶ」意欲になっているか ③一緒に学んでいる筆者らにとっての今後の課題を見つけることを主目的とした。このアンケート調査は教職課程を履修する学生を対象にしたものであるが、今後広く大学全般の学生の意識としてもいくつかの示唆を与えてくれるものであると考える。

* 東海学園大学スポーツ健康科学部 ** 愛知県公立学校

Ⅱ アンケートの作成と実施

筆者らは、教職を目指す学生たちと三年次と四年次の二年間にわたって「教師養成講座」や「教職実践演習」を通して関わる中で、①学びの捉え方の変化②学びへの意欲や姿勢の違い③大学生活に対しての感じ方や捉え方の変化等を感じ、記録とメモをとってきた。具体的には(1)三年次では、学ぶことや生活に対して多くの不安や焦り、不満を示していた(後ろ向きの姿勢の表現が多い)。(2)四年次では、友と学ぶことの楽しさや嬉しさ、大学生生活の充実感を示す(意欲的な表現や前向きな姿勢の表現が多い)。(3)その(1)と(2)の変化や違いから、本学スポーツ健康科学部で教職課程を学ぶ学生の「学びと生活の充実度」、「学びの内容の捉え方」、「今後の学びへの意欲」を探ることを主目的にし、アンケート調査の質問項目を作成した。それを令和2年9月、四年生男子5名と女子5名、計10名にサンプリングを実施した。その結果を基に質問内容を検討、修正し作成した。

アンケートの実施は、「教職実践演習」の授業がA班とB班に分かれているため、B班は令和2年10月、A班は同年11月に実施した。この時期は、それぞれ四年生の一部の学生が教育実習中であり、全員を対象にすることができなかった。

「教職実践演習」A班の受講生33名にアンケートを実施し、提出者は28名(男子13名、女子15名)であり、B班の受講生38名にアンケートを実施し、提出者は26名(男子16名、女子10名)、受講生計71名中54名(男子29名、女子25名)である。アンケートは実施後その場で回収した。

Ⅲ アンケートの内容と結果

1 学生の生活実態調査

表1 学生のアルバイトについての調査、集計結果

	アルバイトの内容	A班 (28)		B班 (26)	
		男13	女15	男16	女10
1	飲食店	5	7	8	6
2	スポーツクラブ	3	2	2	2
3	塾	2	2	1	1
4	ガソリンスタンド	0	0	1	0
5	コンビニエンス ストア	1	1	1	1
6	その他のアルバイト	0	3	0	0
7	無回答・アルバイトをしていない	2	0	3	0

このアンケート調査では、男子、女子ともほとんどがアルバイトをしながら学生生活をしており、無回答あるいは「アルバイトをしていない」と回答したのはA班、B班ともに数名の男子学生であった。アルバイト内容の多くが飲食関係である。また、スポーツ健康科学部の教職課程を学ぶ学生らしく、スポーツクラブや塾でのアルバイトを行っていることも特徴として目立っている。

2 大学内「部活動」への入部状況結果

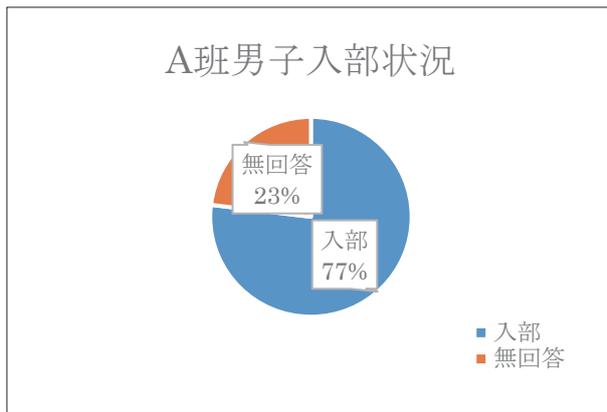


図1-1 A班 男子の入部状況

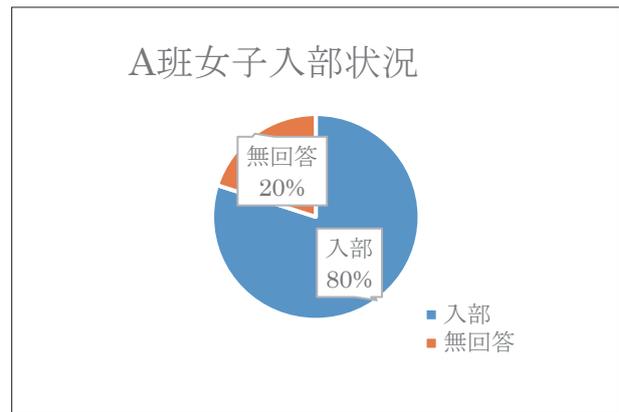


図1-2 A班 女子の入部状況

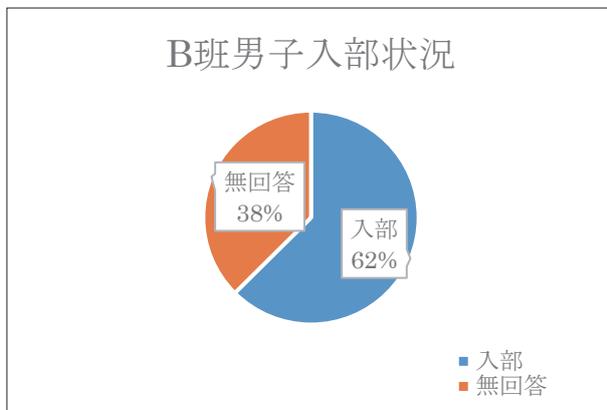


図1-3 B班 男子の入部状況

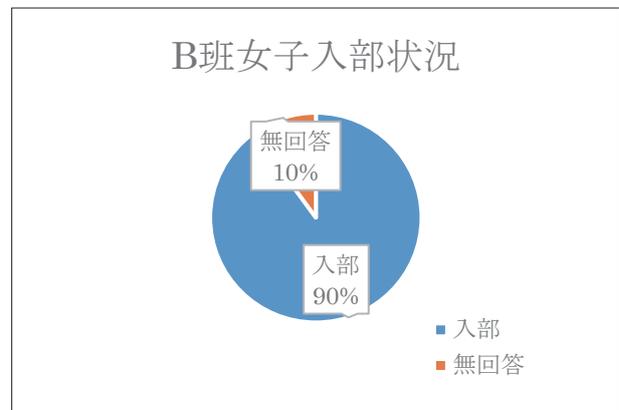


図1-4 B班 女子の入部状況

1の結果と同様、調査対象が本学スポーツ健康科学部に所属している学生であるがゆえに、部活動に入部しながら教職課程を学ぶ学生が多く、その特徴を示している。集計した数値は、A班：男子13名中10名（無回答3）、女子15名中12名（無回答3）が入部、B班：男子16名中10名（無回答6名）、女子10名中9名（無回答1名）が入部していると回答している。

3 学生の自主活動

表2 「ボランティア活動への参加」調査、集計結果

	ボランティア活動の内容	A班 (28)		B班 (26)	
		男 13	女 15	男 16	女 10
1	学校での授業補助	3	3	3	1
2	水泳、体操、陸上指導補助	2	6	2	4
3	高校、中学校の部活動指導	2	0	2	1
4	クラブチーム指導	1	1	0	0
5	無回答	5	5	9	4

部活動とは別に小学校、中学校、高等学校でのボランティア活動へ積極的に参加して指導している学生が多く、教師を目指している学生それぞれの意欲と姿勢が実践活動として表れている。

4 アンケートの質問内容と結果 「四年間を振り返って」

Q1 「東海学園大学での学びと生活は充実した大学生活であった」についての集計結果

表3 「東海学園大学での学びと生活は充実した大学生活であった」の集計結果

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班28名	13	15	0	0	3.46
B班26名	16	12	0	0	3.57

この結果からは、「ややそうは思わない」や「全くそうは思わない」と回答した学生はいない。あくまでも教職課程を学ぶ学生の中の54名の回答であることを踏まえた上で、男女を問わずその全ての学生が「充実した大学生活であった」や「ややそう思う」と回答している。

池内(2015)は「卒業時満足度調査2015」⁴⁾の中で「77%の大学生が在籍大学に満足」と報告しているが、今回の筆者らの調査での質問は満足度調査ではなく、本学での「学びと生活の充実感」を問うものである。

表4 「充実した学びと生活となったものは何か」の集計結果 (複数回答)

	四年間の学びと生活の中で 充実したもとなった内容 (複数回答)	A班 (28)		B班 (26)	
		男13	女15	男16	女10
1	教職課程の授業や勉強 (含実習)	6	8	8	7
2	友人との学びや生活	5	12	6	4
3	学内「部活動」	6	8	6	7
4	アルバイト、ボランティア	3	4	5	4

表4より、学生にとっての大学生活が「友人との学びや生活」が大きな位置を占めるのはよく理解できる。またこの調査では「教職課程の授業や勉強 (含実習) が四年間の充実した学びと生活になった」とA班、B班共に高い数値として回答された。また後の質問の表13「本学をより充実させるために環境面で何が必要か」の質問に対して、「意識の高い仲間」を挙げている学生が男子、女子ともに複数いることは、本スポーツ健康科学科で教職を目指してきた学生の貴重な内面を知る意見である。

Q2 「東海学園大学での学びと生活は、人間として成長ができたと思うか」についての集計結果

表5 「東海学園大学での学びと生活は、人間として成長ができたと思うか」の集計結果

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班28名	13	15	0	0	3.46
B班26名	13	13	0	0	3.50

表5より、全ての学生が「東海学園大学での学びと生活は、人間として成長ができた」と回答している。そして、この「人間として成長できた」の内容について、以下のように回答している。(複数回答)

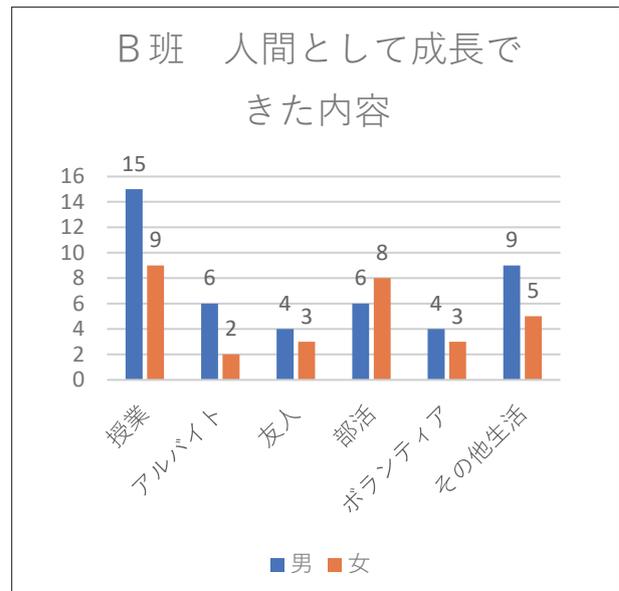
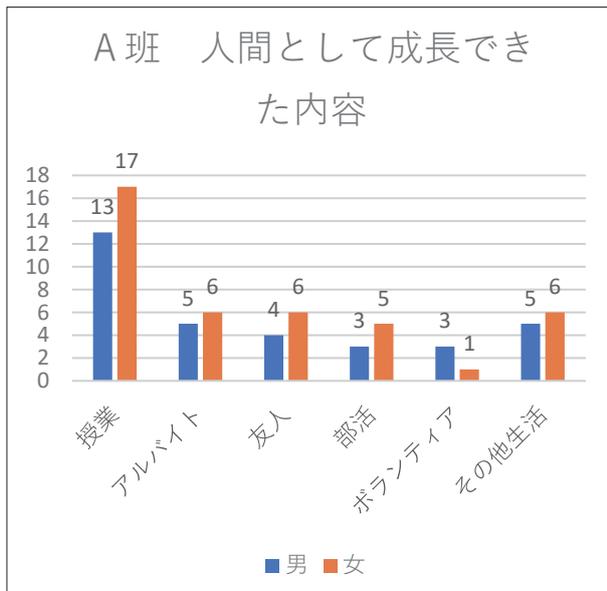


図2-1 A班 「人間として成長できた内容」の集計結果

図2-2 B班 「人間として成長できた内容」の集計結果

「人間として成長できた内容」を、A班、B班共に「授業」と回答した割合が最も高かった。上記の「授業」の内容は各自のそれぞれのことばで記されており、例えば「実習」「教育実習」「介護実習」「教職のクラスの勉強」「野外実習」「授業」「実技の授業」「ゼミの活動」等である。これらを「授業」として上記の図に示した。

「その他の生活」の内容の中には、「一人暮らしの生活」「人前に立つ経験」「年上の人との接触経験」「お金の価値を知る経験」等を挙げている。

また、人間として成長を「就職活動」「留学」「人との関わり活動」によって実感したと回答している学生もいる。この他「社会のマナーを身につけた」「考える力を身につけた」を成長の内容として回答している。

Q3 「東海学園大学での学びと生活は、『今後に生きる実践的な学び』だったと思うか」についての集計結果

表6 「東海学園大学での学びと生活は、『今後に生きる実践的な学び』だったと思うか」の集計結果

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班28名	8	17	3	0	3.18
B班26名	8	15	3	0	3.19

上記の表から、自信をもって「そう思う」と答えた学生よりも「ややそう思う」と答えた学生が多い結果となっている。即ち、質問の「実践的な学び」とは何であるか、それが今後どう繋がっていくのかが不明確であるため、学生が自信をもって「そう思う」と回答できなかったと考えられる。それは「ややそう思わない」「全くそう思わない」と答えている学生にも共通して言える。これは筆者らの質問が不明確であったと考えられる。その上で、今後の大学教育や教職課程の学びとして「今後に生きる学びとは何か」や「実践的な学びとは何か」を「人間性の涵養」をも含めて明確化、具体化して学生に提示し、共有した上で目標に向かう必要がある。

回答した学生の多くは「実践的な学びと思うものは何か」について、「授業や実習」「部活動」「アルバ

イト」「就職活動とその勉強」「学連や東学祭の取り組み」「人との関係、人の観察やコミュニケーションの取り方」「先を見て行動する」等を挙げている。このことから、学生の多くは、自ら主体的に動くことによって得る知識や知恵、技術や技量を「実践的な学び」として捉えていることがわかる。

Q4 「東海学園大学での四年間の学びに、意欲をもって取り組んできたか」についての集計結果

表7 「東海学園大学での四年間の学びに、意欲をもって取り組んできたか」の集計結果

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班28名	5	20	2	1	3.04
B班26名	11	10	3	0	3.33

※B班2名は無回答

B班に比べて、A班では「そう思う」よりも「ややそう思う」に回答が集中し、「思わない」との回答も複数あり、「意欲を持って取り組んできた」ことへの自信が曖昧な回答結果となっている。これは、B班においても一部同様の傾向が示されている。

「意欲をもって取り組んだと思う教科や活動は何か」について（複数回答）

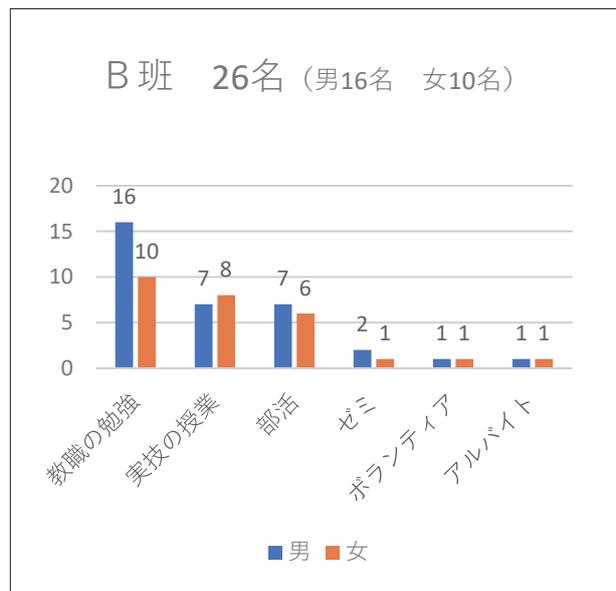
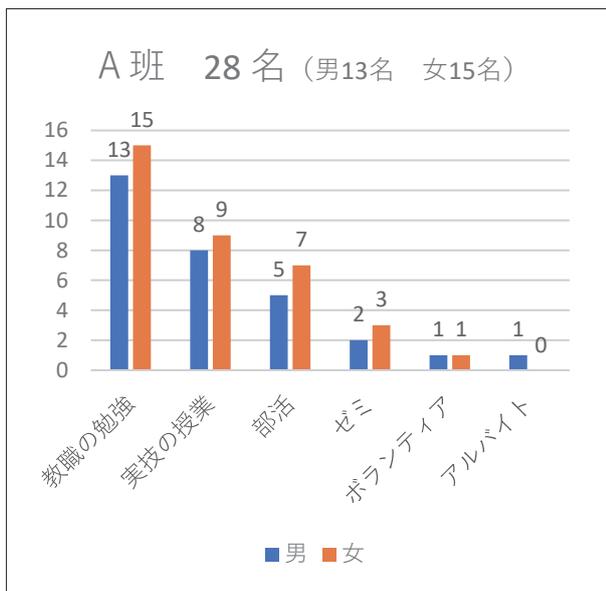


図3-1 A班 意欲を持って取り組んだ内容の集計結果

図3-2 B班 意欲を持って取り組んだ内容の集計結果

上記図の「教職の勉強」は、学生が記した「教職の授業」、「専門分野の勉強」「演習、実習」を含めて示している。また「実技の授業」は、「実技授業」、「授業実践」等の内容を含んでいる。

この上記の回答からは、教職課程を学んできた本学部の学生の多くが、特に授業を中心とする教職の学びに意欲をもって取り組んできたことが示されている。同時に部活動に所属しながら諸活動等（ボランティア活動等）に意欲的に取り組んできたことを示す数字でもあると言える。それはまた教職を目指してきた学生の特徴的な傾向として捉えることもできる。他の職種を目指しているグループの傾向はどのようにみられるであろうか。

Q5 「四年間の教職の学びでどんな力がついたと思うか」についての集計結果（複数回答）

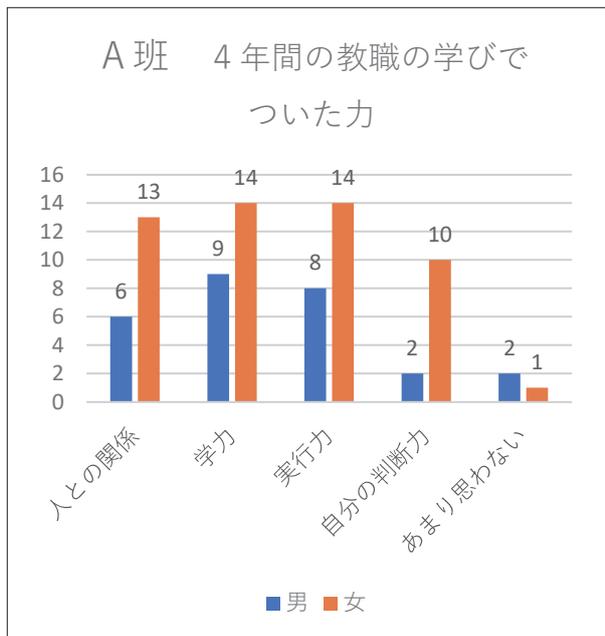


図4-1 A班 4年間の教職の学びでついた力

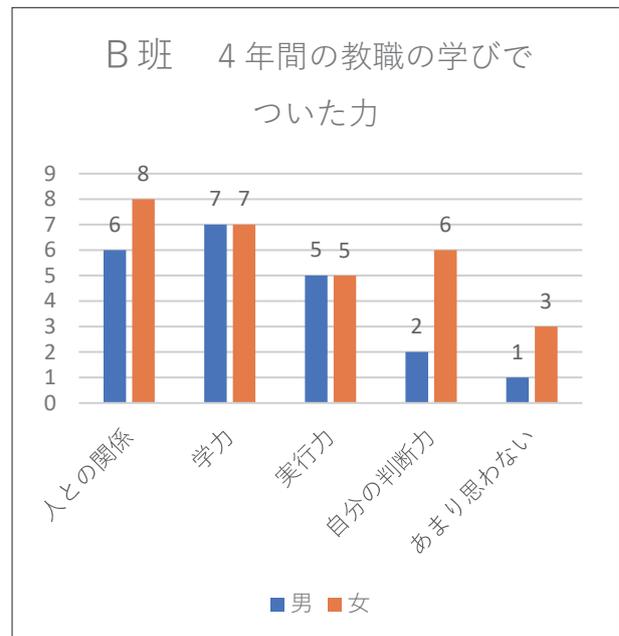


図4-2 B班 4年間の教職の学びでついた力

文部科学省は、学習指導要領³⁾の中で「学校教育において児童生徒に育成することを目指す資質能力を『資質・能力の三つの柱』として ①基礎的な知識及び技能 ②これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力 ③主体的に学習に取り組む態度、としている。

上記の図4-1、図4-2は学習指導要領に示されたこれらの内容を少なからず多くの学生が包括して捉えている。この学びこそが「学びの要点」であると筆者らは捉えており、意義深く内容のある回答を得た。しかしその反面「学びでついた力」とは何か、を「あまり思わない」とする回答が複数あることにも注意すべきだろう。

Q6 「あなたは今東海学園大学の卒業生としての誇りが持てますか」についての集計結果

表8 「あなたは今東海学園大学の卒業生としての誇りが持てますか」の集計結果

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班28名	8	16	4	0	3.14
B班26名	10	13	2	1	3.23

この回答の集計結果は、学生たちの複雑な感情が出ていると読み取れる。「そう思う」との回答よりも「ややそう思う」と回答している数値が多く出ていること。また微妙に「ややそうは思わない」「全くそうは思わない」とする数値が、A班、B班共に出ていること。さらに図5に出ているように「今後どの大学で学びたいか」の質問に、具体的に日本体育大学、筑波大学、早稲田大学、中京大学、愛知教育大学、東京大学の名を挙げている。

スポーツ健康科学部の教職課程を学んできた四年生のある男子学生が「教職実践演習」のレポートの中で「自分自身、就活や採用試験、教育実習を受けて感じたのは大学名のブランドのなさです。少なからず、第一印象で引け目をとってしまう部分が多くあります。」と記している。本学は1995年に創立され、スポー

ツ健康科学部は2004年に人間健康学部として設置された新しい大学である。それゆえに知名度がまだ低い本学での学びと生活に、上記の学生だけでなく多少の不安を抱いている学生もいることを示す数値である。

Q7 「四年間の学びと生活の中で、やり残したと思っていることは何ですか」についての集計結果

表9 「四年間の学びと生活の中で、やり残したと思っていることは何ですか」の集計結果（複数回答）

		遊び	勉強	旅行	部活	留学	恋愛	ボランティア	人との関わり
男	A班13名	7	3	3	3	2	2	2	0
	B班16名	3	12	2	6	3	0	3	0
女	A班15名	4	6	5	2	0	0	2	4
	B班10名	2	4	5	0	0	0	2	2

教職課程を学ぶ学生が「やり残したと思っている」ことの最も多い数値はやはり「勉強」となっている。既に発表された教員採用試験の結果も影響していると思われるが、その結果も含めて意欲的な「学びへの姿勢」として捉えられよう。また大学生活で、「遊び」や「旅行」「留学」「恋愛」等をやり残したとする回答結果から、忙し過ぎる大学生活がその要因の一つのように考えられる。

Q8 「あなたは、今後再び機会があれば東海学園大学で学びたいと思いますか」についての集計結果

表10 「あなたは、今後再び機会があれば東海学園大学で学びたいと思いますか」の集計結果 ※調査はA班

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班男13名	0	6	5	2	2.31
A班女15名	1	6	6	2	2.40

この集計結果は「ややそう思う」と「思わない」とする回答がほぼ同数となっている。Q1での「充実した大学生活であった」と多くの学生が回答したこと、そしてQ6「あなたは今東海学園大学の卒業生としての誇りが持てますか」の回答結果で、「ややそう思う」と回答した数値が多かったことを考えると、「今後再び、東海学園大学で学びたいか」の質問に対して「ややそう思う」と確信の持てない回答結果として示されている。

そこで次に「あなたは、今後再び機会があれば他の大学で学びたいと思いますか」との問いに対しては、表11のような結果が示された。

Q9 「あなたは、今後再び機会があれば他の大学で学びたいと思いますか」についての集計結果

表11 「あなたは、今後再び機会があれば他の大学で学びたいと思いますか」の集計結果 ※調査はA班

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班男13名	6	2	3	2	2.92
A班女15名	2	6	5	2	2.53

この回答結果から、東海学園大学スポーツ健康科学部で学んできた学生が、さらに学びの意欲をもって

他大学で学びたいとする数値（平均数値）が男子2.53と女子2.92として示されている。

また「今後機会があれば、どこで学びたいか」の集計の結果、図5でも、本学のスポーツ健康科学部と回答した学生が多くいる。一方女子の中には、本学の大学院（設置されれば）や他の大学の学部でとの回答がある。これらの回答から「学び」に対する今後の意欲やさらに前を見つめている学生の回答として捉えたい。

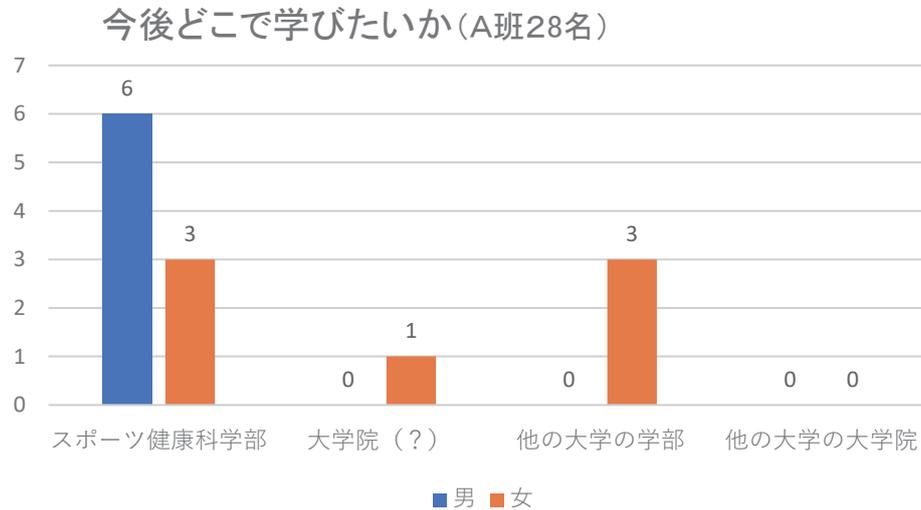


図5 「今後どこで学びたいか」の集計結果

Q10 「あなたは、今後もっと素晴らしい東海学園大学での学びにするために、環境面での充実が必要だと思いますか」についての集計結果

表12 「今後のために東海学園大学の環境面での充実が必要だと思いますか」の集計結果 ※調査はA班

人数(値)	そう思う(4点)	ややそう思う(3点)	ややそう思わない(2点)	全くそう思わない(1点)	(評価平均値)
A班男13名	2	5	6	0	2.69
A班女15名	5	3	6	1	2.80

表13 「今後の東海学園大学に必要な環境面での充実とは何ですか」の集計結果（複数回答） ※調査はA班

	施設	設備(備品)	意識の高い仲間	アクセス		実習の場	大学食堂
男	6	2	2	1		1	1
女	2	2	1	1		1	0

これら回答は、施設等ハード面が多く出てきているが、上記「意識の高い仲間の集まり」を求めている学生が男女ともにいることは注目すべき内容である。その学生の具体的な表現を見てみると「目的意識の高い仲間がいること」、「同じ目標の学生が多くいること」「学生の学ぶ意欲や雰囲気」と表現をしている。

これは、四年間目標をもって教職課程を学んできた学生たちの率直な意見として受け取る必要がある。また「実習の場」は、近い日に教育現場に出て直接子どもたちに向き合う教師になるための大切な「実習研究の場」の必要性を実感したものであり、今後のために生かしたい意見である。

その他には、「学費の減免」、「質の高い講義」も挙げられている。東海学園大学で学びの生活の中から真剣に向き合ってきた学生たちの意見である。

Q11 「あなたは、今後もっと素晴らしい東海学園大学での学びにするために、指導する先生方やスタッフの皆さんの面で充実が必要だと思いますか」についての集計結果

表14 「今後指導する先生方やスタッフの皆さんの面での充実が必要だと思いますか」の集計結果 ※調査はA班

人数 (値)	そう思う (4点)	ややそう思う (3点)	ややそう思わない (2点)	全くそう思わない (1点)	(評価平均値)
A班男13名	2	5	6	0	2.69
A班女15名	3	5	5	2	2.60

指導者やスタッフ面での充実が「必要と思う」と答えた学生と「思わない」と答えた学生の割合は、ほぼ同数である。現在の状況で満足している学生と、そうでない学生が混在している数値である。現在の指導者やスタッフ、友人との学びの環境をさらに発展させていくために次の質問を試みた。

表15 「今後、東海学園大学にどのような先生やスタッフの人が必要だと思いますか」の集計結果（複数回答）※調査はA班

男子 (13名)	人数	女子 (15名)	人数
専門の人 (技能)	2	専門・プロの人	2
実績のある人	1	教育現場で経験のある人	2
知識のある人	1	学生に寄り添える人	3
教育現場で実績のある人	1	違う職業に就いた人	3
学生と共に成長する人	3	わかりやすい授業のできる人	1
教師の魅力を伝えてくれる先生	1	コミュニケーションがとれる人	1
学生を信頼し期待をしてくれる先生	1	天狗ではない人	1
課外活動のスタッフ	1		

上記 表15の男子回答のことばには、「・・・の人」や「・・・の先生」が記してあり、そのまま記載した。

男子、女子共に同じ「専門の（プロの）人」「(男子) 教育現場で実績のある人」「(女子) 教育現場で経験のある人」が挙げられている。すなわち教職課程を学ぶ学生たちは、東海学園大学で求める指導者やスタッフとして ①専門としての知識、技能、技術のある人が重要である、と認めつつも ②人としての道、教師としての道を（指導者と学生が）一緒になって探求できる人、が必要であると指摘している。さらに特筆すべきは、③「(男子) 学生を信頼し期待してくれる人」「(女子) 学生に寄り添える人」「(女子) 違う職業に就いた人」「(女子) コミュニケーションがとれる人」「(女子) 天狗ではない人」等を挙げた多くの学生がいる。これらは本学で四年間を学んできた学生たちの率直な思いの表現であり、筆者らにとって極めて貴重な意見として捉えたい。

Q12 「今後の人生での夢は何か」についての集計結果（複数回答）

表16は、回答者の表現されたことばのとおり集約してみた表である。自由に表現されたことばの中に、「学んできた内容」がそれぞれの学生に内面化され、表現されていることばであって、興味深い。

表16 「今後の人生での夢は何か」についての集計結果

※調査はA

男子 (13名)		女子 (15名)	
教員になる	6	幸せに楽しく普通の生活をする	9
家庭を持つ、スマートに生きる	5	(夢を与えられる) 教師になる	5
他の人に夢や希望を与え笑顔にする	2	お金を貯めて幸せに暮らす	3
マイホームを持ち、幸せに生きる	2	親孝行をする	2
旅行をする	2	家庭を築く	2
学校の管理職になる	1	家族や周りの人を幸せにし、人のために生きる	2
支店長になる	2	旅行をする	1
海外に行く	1	健康に過ごす	1
生徒のことを一番と考えられる教師	1	自立する	1
農業で教育し、持続可能な教育をする	1	生きがいを見つける	1

表16より、「今後の人生の夢」を「自分の夢」と捉える学生とは別に、「他人の幸せを自分の人生の夢」と捉えている学生が多くいることは、教職を学ぶ学生の「学びの深さ」でもある。

IV アンケート調査の結果から

- 1 言うまでもなく、本調査は学部や対象となる学生を限定して実施したものであり、全体を捉えているものではない。
- 2 その上で、本年（2020）の東海学園大学スポーツ健康科学部の教職課程を学ぶ四年生54名のアンケート調査の回答から、次の点を捉えることができた。

(1) 学生の生活の実態について

- ア 回答した全ての学生が教職を目指し、授業や勉強を最も大切に考え、努力を続けてきたこと。
(表2、表3、図3-1、図3-2)
- イ ほとんどの学生がアルバイトをして生活を支えていること。(表1)
- ウ 学部の特性もあり、6割以上の学生が部活動に励みながら教職課程を学んでいること。
(図1-1、図1-2、図1-3、図1-4)
- エ 今後教職につくことや就職を見つめ多くの学生がボランティア活動に参画していること。(表2)
- オ 大学生生活で「やり残したこと」では、「遊び」や「旅行」、「勉強」を挙げ、多忙な学生生活が示された。(表9)

(2) 学生の「学び」について

- ア ほとんどの学生が四年間、授業や実技の授業等の学びに「意欲を持って取り組んできた」と回答していること。(表4、図3-1、図3-2)
- イ 「教職の学び」を知識だけでなく、自らの生活や体験を通して学ぼうとしている学生が多いこと。
(表6、図4-1、図4-2)

(3) アンケート調査の回答から確認できた内容

- ア 回答した54名の全ての学生が、「東海学園大学での四年間の学びと生活は充実したものであった」との回答を得ることができた。(表3)
- イ その「充実した学びや生活となったもの」を、多くの学生が「勉強や友との学びや生活、その他の諸活動に取り組んできた結果である」としている。(表4)
- ウ また回答した54名の全ての学生が、「東海学園大学での四年間の学びと生活は、人間として成長できた」との回答を得ることができた。(表5)

- エ その成長できた内容は、「教職の授業や勉強」と「友人」、そして自主的な「部活動やアルバイト、ボランティア活動等の諸活動」からの学びの結果であるとしている。(図2-1、図2-2)それはまた「今後に生きる実践的な学び」として捉えていることが確認できた。
- オ 今後も持続して学ぶ意欲を持つ学生が(回答者の半数以上)育っていることが確認できた。(表10、表11、図5)
- カ 「東海学園大学での学びの環境」について、「意識の高い仲間の集団」が必要であると指摘した学生が数名いること、また指導者やスタッフには「学生と共に成長する人」や「学生に寄り添える人」を多くの学生が求めていることが顕著に示され、筆者らの「指導と学びの姿勢」を確認することができた。(表12、表13、表14、表15)
- キ 「東海学園大学の卒業生としての誇りが持てるか」の質問に対して、明確に「そう思う」は約3割であり、「ややそう思う」が約6割、「ややそう思わない」「全くそう思わない」が約1割の回答を示した。本学が開学して間もない大学であり、知名度が低いことを気にしている学生がいることが確認できた。

V 今後の課題

- 1 本学での学びと生活が「今後に生きる実践的な学びであったか」については、「ややそう思う」と回答した学生が多い他、「そうは思わない」と回答している学生もいる。この「実践的な学びであったかどうか」は、今後の生活や生き方によって証明される内容であり、質問の仕方を再考する必要がある。
- 2 本学で教職課程を学んだ学生が、さらにその後も本学を中心に「学び」を続けていこうとする意欲が育ってきている結果が本アンケート調査を実施して確認することができた。今後この課題のためには「学びの確かさ」や「学びの実感」²⁾を味わうことであり、その「学び」が「人としての生き方」や「夢」に結びつく。その「共に探し求める」姿勢の構築こそが、次の「学び」に繋げていくものであると再認識する必要がある。
- 3 本調査から、「大学での学びや生活」は、本学スポーツ健康科学部の教職を目指す学生だからこそ「教師の指導力」⁵⁾として、部活動、アルバイトやボランティア活動、実践活動や実習等の身体を使う勉強と理論の勉強を両立させながら、意欲的に取り組み、結果として「充実した学びや生活」に向かうことができていると言える。教職を目指していない学生はどのような学びや生活になっているのかをさらに調査する必要がある。
- 4 本学の「共生」⁶⁾は、人との「共生」^{ともいき}だけではない。自然との「共生」^{ともいき}も問われている。今後本学で学ぶ者が、「机上の教師のあり方」から「人間として、生きる力のある教師」へと育っていくために、また広く世界で生きていくために、筆者らをはじめとする本学全体が「生きる力」を体得する「学びの場」となることを目指していく必要がある。最も大きな課題である。

VI あとがき

文部科学省は2014年に「21世紀を生き抜くための力を育成するため、これからの学校は、①基礎的・基本的な知識・技能の習得 ②思考力・判断力・表現力等の育成 ③学習意欲の向上 ④多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成を重視する必要がある」⁷⁾としている。そのために「取り組むべき課題」として、「新たな学びを支える教員の養成と学び続ける教師像の確立」⁸⁾を挙げている。

本学が人材養成の目的として、「勤儉誠実の信念と共生(ともいき)の理念に基づく人間力の向上を核として、幅広い職業人の育成⁹⁾」を掲げ、スポーツ健康科学部¹⁰⁾では、「健康社会の構築に貢献できる保

健体育教諭、スポーツ指導者、健康づくりリーダーなど、様々な分野での可能性をもった人材の養成」を目的として、必要な幅広い教養と実践力のある人間の育成を目指して今日まできた。

この調査と結果は、前述したとおり東海学園大学の一部の学生の結果にすぎないが、本学の目指している「共生き」⁶⁾（人間の育成）が、確実に成果を上げていると実感した。

参考文献

- 1) 右高和生 (2019) : 「教職概論授業とその課題」、東海学園大学「教育研究紀要」第2巻第1号
- 2) 山口大学教育学部附属山口小学校 (2010) : 学びの実感
<http://www.ymg-es.yamaguchi-u.ac.jp/03-06history/H22souron.pdf#search=%27> (2020年11月4日検索)
- 3) 文部科学省 (2017) : 学習指導要領、<https://www.mext.go.jp> (2020年11月4日検索)
- 4) 池内摩耶 (2015) : 卒業時満足度調査2015、リクルートカレッジマネジメント194/Sept・oct・2015
- 5) 小島弘道、北神正行、水本徳明、平井貴美代、安藤知子 (2020) : 教師の条件—授業と学校をつくる力、学文社、東京
- 6) 東海学園大学 (2017) : 履修の手引き (別冊) 三つのポリシー、1、21-24
- 7) 文部科学省 (2017) : (3) 今後における教育の在り方の基本的な方向、21世紀を展望した我が国の教育の在り方について (中央教育審議会 第一次答申)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/attach (2020年11月4日検索)
- 8) 文部科学省 (2012) : 現状と課題
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1325922.22.htm (2020年10月22日検索)
- 9) 東海学園大学 (2017) : スポーツ健康科学部、履修の手引き、スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科、33-40
- 10) 東海学園大学 (2016) : 履修の手引き、スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科、35-41

東海学園大学 4 年生 教職実践演習アンケート 令和 2 年 月 日

..... 学科 男 女 部活動 部 ボランティア アルバイト名

あなたの東海学園大学での学びと生活から、四年間を振り返って答えて下さい。

1 充実した大学生活であった

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

(1) 四年間の学びと生活の中で、充実したものとなったのは何ですか。

① ② ③

2 人間として成長ができた

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

(1) 「人間として成長できた」と思う学びや経験となったのは何ですか。

① ② ③

3 東海学園大学での学びは「今後に生きる実践的な学び」だったと思いますか。

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

(1) 「今後に生きる実践的な学び」と思うものは何ですか。

① ② ③

4 東学大での先生方からの学びに、意欲をもって取り組んだと思いますか。

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

(1) 「意欲をもって取り組んだ」と思う学びや教科、活動は何ですか。

① ② ③

5 四年間の教職の学びでどんな力がついたと思いますか。

ア 人との関係 (会話等) イ 知識 (学力) ウ 実践する力 エ 自覚 オあまり思わない

① ② ③ ④ ⑤

6 あなたは、今東海学園大学の卒業生としての誇りを持てますか。

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

7 四年間の学びと生活の中で、やり残したと思っている事は何ですか。

① ② ③

8 下宿 自宅より (○をつけて下さい) 9 授業料は 自分で、親から

東海学園大学4年生 教職実践演習アンケート 令和2年 月 日

..... 学科..... 男..... 女.....

1 あなたは、今後再び機会があれば東海学園大学で学びたいと思いますか。

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

↓ ↓

(1) それは、学部ですか、それとも大学院ですか（スポ・健の大学院があるとして）。

①..... 学部..... ②..... 大学院..... ③他の学部..... ④他の大学院.....

2 あなたは、今後再び機会があれば他の大学で学びたいと思いますか。

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

↓ ↓

(1) それは、学部ですか、それとも大学院ですか（他の大学の大学院）。

①..... 大学..... 学部..... ②..... 大学の大学院.....

3 あなたは、今後もっと素晴らしい東海学園大学での学びにするために「環境面での充実が必要」と思いますか。

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

(1) その「今後に必要な環境面での充実」とは何ですか。

①..... ②..... ③.....

4 あなたは、今後もっと素晴らしい東海学園大学での学びにするために「指導する先生方やスタッフの皆さんの面で充実が必要だ」と思いますか。

ア 本当にそう思う イ そう思う ウ あまり思わない エ そう思わない

(1) その「今後どの様な先生やスタッフの人が必要だ」と思いますか。

①..... ②..... ③.....

5 あなたの今後の人生での夢は何ですか。

①.....

②.....

③.....